

## 世界各国に医療関連機器を販売する榕懋實業

榕懋實業(英語名:APEX HEALTH CARE)は世界60カ国以上に向けて、病院・住宅で利用するケアベッドをはじめとする医療関連製品の製造・販売を行っている。今回は、榕懋實業の黄啟宗董事長を訪ね、これまでの事業内容や今後の戦略、日本企業との連携可能性についてお話を伺った。



榕懋實業股份有限公司 黃啟宗董事長

### —榕懋實業について

自ら起業したいという想いから当時勤めていたプラスチック関連会社を辞めて1989年に嘉義県にて榕懋實業株式会社(略称:榕懋實業)を立ち上げました。当初は高齢者向けの器具を売る小さな会社としてスタートしました。設立当初は担架や松葉杖、ベッドなどの病院関連器具と事務用の金属製のキャビネットを製造・販売していました。現在は医療関連製品に軸足を移してきており、病院や住宅向けのケアベッドやリフト(行動制限のある方向への移動支援器具)と、その関連器具が主力商品となっています。

医療技術の進歩に伴って台湾に限らず世界的に平均寿命が高まるとともに高齢者の人口が増加してきたことで、これから製品の市場規模は年々増加してきました。しかし、弊社が事業を始めた当時はこういった高齢者向けの補助器具を製造する企業はそれほど多くありませんでした。うまく市場のニーズを捉えて売上規模を拡大することができたと感じています。

台湾国内のみを市場と捉えると、あまり大きな市場を見込めないため、台湾の企業は輸出志向であることが多いといえます。当社も顧客基盤は海外企業がメインであり、日本を含む約60カ国に顧客を抱えており、海外の顧客からの売上が全体の90%を越えています。現在は多くの国々の企業に対してビジネスを展開することができるようになりましたが、昔はインターネットや電子メールがなかったため、顧客開拓に大変な苦勞をしてきました。インターネットなどの手軽に連絡が

できる手段がなかったため、自ら世界各国の展示会に参加し、現地で名刺交換をした顧客に紙のパンフレットを送り返事を待つといったことやそこで見込みがあると感じた顧客企業を直接訪問するといった地道な営業を続けてきました。それによって少しずつ海外市場を開拓していきました。

### —これまでの取り組みについて

台湾の製造業一般に言えることですが、製品の大量生産によってグローバルでの優位性を保つということは難しいため、研究開発による付加価値を強みとして市場を獲得していく必要があります。そのためには市場から情報を収集し、顧客の需要を理解し、製品の企画開発の方向性を決定していかなければなりません。そのための研究開発への投資も積極的に進める必要があり、弊社もその例外ではありません。

弊社では海外現地の人材を積極的に登用し、市場調査や営業、サービス提供、さらには製品開発の方向性検討に参加してもらっています。具体的な情報収集の方法については、まず海外の顧客企業の業務について話を聞く中で顧客企業が抱えている課題や今後の顧客企業の成長の方向性についての理解を深めることが基本となります。さらに、20年以上にわたり医療機器関連分野に携わってきたことで得た世界有数の医療機器メーカーとのネットワークを活用して、各種製品個別のカスタマイズニーズを吸い上げることも行っています。弊社では様々なカスタマイズに対応できる点もこれら情報収集を容易にしています。他にも、展示会に参加して新製

## 台湾トップ企業

品の情報を収集したり同業者から刺激を受け続けることも重要です。

製品の付加価値は、原材料の変更(例えばアルミ部材への切り替え)や新技術の組み合わせ(例えばベッドへのセンサーや照明の設置)により高めることができます。ベッドへセンサーを設置することによって、寝たきりの患者のデータを収集するだけでなく、ベッドが濡れているかどうか、シーツを交換する必要があるかどうかなどを介護者に知らせることもできます。それにより作業者の負荷を減らすことができ、患者の生活の質の向上ももたらすことができます。こういった様々な付加価値向上を狙うことで製品を差別化し競争力を向上させ、市場の需要に応じてきました。多数の関連特許もこれまでに保有することができています。

### —今後のビジネスについて

現在台湾政府は、企業によるセンサーを組み合わせたスマート製品の開発・販売を推進するために、小規模なパイロットプロジェクトを進めています。スマート製品を通じて収集したデータをクラウド上にあるプラットフォームに蓄積・統合し、活用することが期待されています。これからの製品開発にあたっては、こういった機会を活用していきたいと考えています。ただし、医療機器関連の製品はその利用に医療行為が含まれるため、厳しい条件や規制が課せられており、データ取得・活用に関する法令がまだ整備されていません。各種責任が明確になるまでは医療関連のスマート機器への参入は待ったほうがよいと考えています。他には、EUのグリーン電力による生産要求に応えるために、太陽光発電による生産も検討しています。

### —台日合作について

台湾はハードウェアの製造に関しては大変優れています。工業デザインに関しては、ヨーロッパやアメリカ、日本の方が優れていると感じています。台湾の工業デザインでは、海外のバイヤーを引き付けることが難しいため、現在はデンマークの企業に工業デザインの協力を依頼しています。これまで、日本企業とも工業デザインでの協業を検討してきましたが、

双方が考える方向性が合致せずうまくいっていません。個人的には、日本の工業デザインは非常に優れていると思いますが、欧米企業のニーズに照らし合わせるとオーバースペックでありコストの面で優位性が保てないと感じています。

しかし、特に最近のIoT技術のブームの中で、台湾企業と日本のセンサーメーカーが連携したり、ソフトウェアメーカーとハードウェアメーカーが協力関係をもったりするという事例は益々増加していくのではないかと感じています。台湾は日本文化を受け入れる素地を持っていることや、両国間での長期的な協力・交流関係によって生み出された深い信頼感、台湾と日本のそれぞれの産業界における補完的な関係なども連携を後押しする要因となるのではないのでしょうか。弊社も日本企業との連携は進めていきたいと考えています。

上記に加えて日本企業が台湾を活用するメリットとして、サプライチェーンの上流から下流まで様々な企業が集まっていることがあげられます。弊社が取引をしているサプライヤーや金属加工メーカーは、台中から台南の間の約1時間圏内に集積しており、生産時間の短縮化につながっています。弊社は生産設備の自動化についても検討しており、東南アジアなどの第三国に販売するための製品の設計と製造で日本企業と協力していく大きな余地があると思います。

### —ありがとうございました。

#### 榕懋實業股份有限公司の基本データ

会社名	榕懋實業股份有限公司 (英語名:APEX HEALTH CARE MFG., INC.)
董事長	黃啟宗
資本金	1989年
事業内容	医療関連機器、病院設備の製造販売

注)2018年8月の情報による  
出所)公開資料及びヒアリングよりNRI整理